

## 技術日本語表現技法 (Technical Writing)

1. 句読点の打ち方
2. 助詞 特に、「は」と「が」を中心に

## 文法教科書によると読点は・・・

- 中学校の文法: テンの打ち方に記述はない?
- 国文法参考書: 「読点のうち方には、**これでなければならないというきまりはない**といえるし、文を書く人によってそれぞれ違っている。しかし、注意をして文を書いていけば、**おおよそ、どのようなところにうてばよいか**がわかるようになるだろう」

## 1. 句点(。)を忘れると大変

- 私はこの基本的な原理を理解していない。
- A氏はとても科学的とはいえないと言った。

つなげると、

私はこの基本的な原理を理解していないA  
氏はとても科学的とはいえないと言った。  
(修飾の原則に従っていないが)

## 2. 読点(、)の重要性

- 皆川先生は汗みどろになって測量実習をしている佐藤技士を探し回った。
- **皆川先生は汗みどろになって、**測量実習をしている佐藤技士を探し回った。
- **皆川先生は、**汗みどろになって測量実習をしている佐藤技士を探し回った。

## 原則1:長い修飾語

- 長い修飾語が二つ以上あるときに、その間にテンをうつ。

× 学生時代とても優秀とはいえなかったAさんと柔道部主将の補佐役を務めたBさんが、後援会の理事を長年務めている。

○ 学生時代とても優秀とはいえなかったAさんと、柔道部主将の補佐役を務めたBさんが、後援会の理事を長年務めている。

## 原則2:語順が逆順

- 修飾語の原則に照らして語順が逆順の場合にテンを打つ。
- **語順が**、修飾語の原則に照らして逆順の場合にテンを打つ。

## 原則3:常識的なもの

- 重文の境目に
- 述語が先に来る倒置文の場合に
- 呼びかけ・応答・驚嘆などの言葉の後に
- 挿入句の前後または前に

## 重文の境目に打つテン

- カリキュラムをJABEEにあわせて改定すると共に、学生や社会が納得するように教育方法を改善してゆく。これが必要な施策だ。
- 子供の養育費に十分な支出を惜しまず、自分の小遣いをふんだんに使う。これでは破産してしまうのも道理だ。

**重文**:主語・述語の関係が成り立つ部分が、**対等の資格**で結ばれている文. **合文**.

**複文**:主節と従属節からなる文.

## 倒置文の場合

- やはり無理だった、彼がM大学に入るのは。
- あの会社だ、次に倒産するのは。
- できなかった、どうしても私には。

## 呼びかけ、応答、驚嘆などの言葉のあと

- 諸君、自分の将来は自分で切り拓くのだ。
- はい、他人の力は当てにしません。
- おー、それでこそ武蔵工大の学生だ。
- でもねえ、ほんとはねえ、ちょっと自信ないねえ。

## 挿入句の前後または前に

- 私の専門は、元来専門などというものはあつてなきに等しいが、構造工学である。
- 私の家族は、私事を申しても仕分けないが、英語の勉強が好きである。

## 重要でないテンはうつな！

- テンは便利なツールであり、とりあえず、テンを打っておけば、大きなミスを犯す可能性は低くなる。
- しかし、テンを使いすぎると、修飾語の順序などの重要な、作文の技術が向上せず、結果、悪文がはびこる結果にもつながる。
- テンを打つときには、必要であるか否かを確認すべき。

## 読点(、)を打つ原則

- 1. 長い修飾語が二つ以上あるときに、その間にテンを打つ。
- 2. 修飾語の原則に照らして語順が逆順の場合にテンを打つ。
- 3. 次の場所にテンを打つ。  
重文の境目に  
述語が先に来る倒置文の場合に  
呼びかけ・応答・驚嘆などの言葉の後に  
挿入句の前後または前に
- 4. 重要でないテンは打たない。

## 引用とそれに用いる符号

- 引用はあくまで原文のまま示さなければならない。
    - 自分の文章と引用文とを明確に区別すべし。
    - あいまいだと、他人に迷惑がかかることも。
- 原文:「教育とはいかに考えるかを教えることである。」  
引用:自ら学び、研究するところが大学であるならば、特に、「教育とはいかに考えるかを教えること」に重点を置くべきである。

## 「いわゆる」を表現するひげカッコ

- 今日の大学では教育を重要視するべきであり、研究については優先度は低いという主張をする教員ほど、一見、“**学生を大事にしている教員**”と見られがちである。しかし、それらの教員の多くは、研究能力が低く、研究を通じた教育をすることのできない、“**真の教育者**”であるのは残念なことである。

## 技術日本語表現技法 (Technical Writing)

助詞  
特に、「は」と「が」を中心に

## 「は」の多様な役割

- 問題用紙は持って帰りなさい。
  - 問題用紙を持って帰りなさい。[対格]
  - 問題用紙については持って帰りなさい。[題目]
  - 問題用紙については持って帰ってよいが、計算用紙については持って帰ってはいけない。[対照]
- 象は鼻が長い。
  - 象というものは、鼻が長い。[題目]
  - 象については鼻が長いが、きりんについては鼻は長くない。[対照]
  - 象の鼻が長い。[連体格]

## 「は」は、 二つ以上の役割を兼務できる

- 墓地の近くを通り過ぎたとき、私は目頭を押さえた。
- - 墓地の近くを「私が」通り過ぎたとき、「私が」目頭を押さえた。
- ×
  - 墓地の近くを(遺族が)通り過ぎたとき、「私が」目頭を押さえた。(他の人が通り過ぎるともとれる)

## 「まで」と「までに」と「までで」

- まで: 動作の継続
  - 9月20日まで夏休みが続く。
  - × 9月20日まで宿題を終わらせよう。
- までに: 動作の最終期限
  - 9月20日までに宿題を終わらせよう。
- までで: 動作をし続けた最終地点
  - 9月20日までで夏休みも終わりだ。

## 「が」は便利だ! ...?

- けれども(がしかし)
  - にもかかわらず
  - ただ繋ぐだけ
- ノーベル賞の内定を受けたが、辞退した。  
彼は一番の年配であるが、考えが新しい。  
ここで話題を変えるが、「が」という助詞はなるべく使いたくないものだ。

## まとめ:助詞の使い方

1. 「は」の多様な役割  
については、というものは、の、が、を
2. 「は」は複数の語を兼務する。
3. 役割の多様な「は」を多用しない。
4. 「が、」は極力使わない。